平成２８年度実施

市民協働「熊谷の力」事業
「はじめの一歩助成金」事業

合同成果報告会

熊谷市市民活動推進課

次　　第

日　時：平成２９年７月４日（火）午後１時３０分から
会　場：江南公民館会議室Ａ・Ｂ（江南総合文化会館ピピア内）

１　開　　会
２　あいさつ
３　報告発表　　１３：３５～１６：２５（予定）

市民協働「熊谷の力」事業

報告発表順	区分	事業名	報告者		発表予定時刻
			市民活動団体	所管課	
①	市提案	市民協働による環境共生都市熊谷推進のための環境創造アイデアコンテスト事業	NPO 法人 エコネットくまがや	環境政策課	13：35～ 13：45
②	市民提案	名勝『三尻観音山』保全活動	観音山保存会	江南文化財センター	13：45～ 13：55
③		タグラグビー普及啓発事業	NPO 法人 ARUKAS KUMAGAYA	学校教育課	13：55～ 14：05
④		熊谷共助ニュース事業	特定非営利活動法人 NPO くまがや	市民活動推進課	14：05～ 14：15

（１０分休憩）

「はじめの一歩助成金」事業

報告発表順	区　分	事業名	報告者（市民活動団体）	発表予定時刻
①	チャレンジ助成金	犬、猫の殺処分ゼロを目指す-地域猫活動・ＴＮＲの推進-	ＣＯＣＯレンジャー	14：25～ 14：35
②		国宝聖天山周辺観光・まちおこし（七夕飾り）	めぬま館・お休み処	14：35～ 14：45
③		郷土を知り、良さに気づき、郷土愛のある人を育てる	ガイドボランティア 阿うんの会	14：45～ 14：55
④		「10 周年記念誌　認定ＮＰＯ法人へのガイドブック」の発行を行い、広く市民の皆様に説明会を開催する。熊谷産小麦に乳酸菌生産物質を配合した「マーブル・フローラ・サブレ」の開発と広く市民を対象としたクッキング教室の開催	認定ＮＰＯ法人くまがや小麦の会	14：55～ 15：05
⑤		インバウンド×英語ボランティアキッズ in　熊谷うちわ祭２０１６	All Education Academy	15：05～ 15：15

⑥		障がい者在宅ライフ倶楽部をみんなに知ってもらおう	在宅ライフ倶楽部	15：15～ 15：25
⑦		文化財めぐりスタンプラリー	熊谷市村岡自治会	15：25～ 15：35

（１０分休憩）

報告 発表順	区　分	事業名	報告者（市民活動団体）	発表 予定時刻
⑧	スタート 助成金	にじいろリングプロジェクト～子どもの笑顔は宝物～ ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会	にじいろリング プロジェクト実行委員会	15：45～ 15：55
⑨		「おいしく食べて元気で長生き」体験イベントを スタートアップ作戦にするはじめの一歩	特定非営利活動法人 オレンジステーション	15：55～ 16：05
⑩		街のしゃべり場 ちょこっと　　より道	これからの地域の繋がりと街づくりを考える会 “ペガサス”	16：05～ 16：15
⑪		ＫＵＫ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクト	ＫＵＫ-ＫＩＺＵＮＡ プロジェクト推進委員会	16：15～ 16：25

４　講　　評
５　閉　　会

熊谷市協働事業提案制度

平成２８年度実施　市民協働「熊谷の力」事業　**成 果 報 告 書**

事 業 名	市民協働「熊谷の力」アイデアコンテスト事業	
実施団体等	実施団体：NPO 法人エコネットくまがや	所管課：環境政策課

１　事業目的	ムサシトミヨが生息する周辺の水辺環境としてのエコ・オアシスを活性化するために、アイデアコンテストを実施する
２　事業概要	市内佐谷田・久下地区にある埼玉県まちのエコ・オアシス保全地第３号地ムサシトミヨ生息地周辺緑地は熊谷市が管理をしているが現在未利用の状況にある。このエコ・オアシスの活用方法について市民等からアイデアを募集し、コンテスト方式により優秀な作品を審査し、表彰式、記念講演を実施する。また、コンテスト終了後は市、実施団体で協力の下、優秀作品の実現化を図る。
３　事業期間	平成２８年　４月　１日～平成２９年　２月２８日
４　事業区分	市提案事業　・　市民提案事業
５　事業形態	委託事業　・　補助事業（補助率　　％）
６　事 業 費	総事業費：　７７２，９０８円（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）　事業収入：　０円（Ａ） 実施団体の負担額：　０円（Ｂ）　市の負担額：７７２，９０８円（Ｃ）
７　事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 ・５月１４日…アイデアの募集に先立ち、エコ・オアシスでの現地説明会を実施。２１名参加 ・６月１日　…アイデア募集期間。一般部門では、個人・団体で１１点の応募があった。 ～７月２０日　ただし学生部門（小・中学生）は応募がなかった。 ・７月３０日…一次審査（書類選考） ・８月２１日…二次審査（公開プレゼンテーション、立正大学にて開催） ・９月２２日…表彰式（最優秀賞１点、優秀賞２点） 記念講演：木村俊明氏（東京農業大学教授/内閣官房シティマネージャー） 「地域創生　成功の方程式はあるのか？」 参加者：約１００名 １月２８日、２月２５日…コンテスト参加者とエコネットくまがや会員により、今後のエコ・オアシスのあり方について意見交換会を実施。 ●達成度 コンテスト形式によりアイデアを募集し、またコンテスト終了後にはコンテスト参加者とエコネットくまがや会員による意見交換会によって市民発信によるエコオアシス整備・活用の目指す方向性が示され、本事業の目的は達成された。 ●波及効果 新聞や雑誌などにも取り上げられ、注目度は高い。
８　協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 コンテストについては、本来、NPO 団体ではなく、熊谷市が主催すべきとの意見があったが、今回NPO の個人や団体を結びつける力により、事業がスムーズに実施でき協働の効果が得られた。 ●所管課から見た協働の効果 協働で実施する事により、市が直接計画を立てて実行するよりも、より市民の理解を得た形で今後のエコ・オアシス整備・活用を推進していくことが出来る。 協働で実施したことにより、市民団体同士の横のつながりを活用し、より多くの市民・団体を巻き込んだ形で事業を実施することができた。

９　今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 エコ・オアシスの活性化は、ムサシトミヨの保護育成とあわせて喫緊の課題である。今後は、市の政策に協力して行きたい。NPO としてもできる範囲で協力できる事業を展開して行きたい。 ●所管課から見た今後の展開と課題 今後はアイデアコンテストの優秀作品、コンテスト参加者とエコネットくまがや会員による意見交換会の結果を踏まえ、実施団体の協力を得ながらエコ・オアシスの整備・活用に向け、実現化を図る。

熊谷市協働事業提案制度

平成２８年度実施　市民協働「熊谷の力」事業　**成 果 報 告 書**

事 業 名	名勝『三尻観音山』保全活動事業	
実施団体等	実施団体：観音山保存会	所管課：江南文化財センター

１　事業目的	三尻観音山を後世に伝え継承して行く為、枯松、倒木、危険樹木等の伐採や遊歩道の整備、植樹等の保全活動を行う。
２　事業概要	１、絶滅の危機にある里山のカタクリ、低地性ニッコウキスゲ、イカリソウ、ヤマユリ、オニユリの保護 （１）立枯れ、倒木、老大木等の危険樹木の伐採（　H２８年４月　H２９年２・３月　） （２）下草刈り及びつつじ、あじさい等の剪定、除草、消毒　（通年　１０回以上） ２、市民の憩いの場として、遊歩道の造成・拡張と整備 （１）遊歩道の造成・拡張と擬木を活用しての整備　（　H２９年２・３月　） （２）腐食した杭とロープの交換　（　H２８年４月　）
３　事業期間	平成２８　年４　月　１　日～平成２９　年　３月３１　日
４　事業区分	市提案事業　・　市民提案事業
５　事業形態	委託事業　・　補助事業（補助率　８０　%）
６　事 業 費	総事業費：１,４１７,７３６　円（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）　事業収入：　０　円（Ａ） 実施団体の負担額　２９８,７３６　円（Ｂ）　市の負担額　１,１１９,０００　円（Ｃ）
７　事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 １、絶滅の危機にある里山植物の保護 （１）立枯れ、倒木、老大木等の危険樹木の伐採 松くい虫の被害による枯松が１０本とクヌギ、コナラ等の倒木が数本あったが、伐採により明るく風通しが良くなり訪れる人々に一層の爽やかさを与えている。 （２）つる性のクズや篠等の草刈りやあじさい、つつじの剪定、除草、消毒 下草刈りや自生する植物の通年を通しての管理を行う事により絶滅の危機にある里山のカタクリ、低地性ニッコウキスゲ、イカリソウ、ヤマユリ、オニユリ、山つつじ、はぎ、アザミ等が四季を通して咲き、多くの人の目を楽しませている。 ２、市民の憩いの場として、遊歩道の造成・拡張と整備 （１）ゲリラ豪雨により遊歩道が歩きにくくなっていたので、擬木（セメントの丸太）を利用して、階段を作ったり、土止めに利用したりして歩きやすく整備した。 （２）遊歩道の杭やロープが腐食していたので交換したので山道が分かりやすく歩きやすくなった。 ●達成度 １、『三尻観音山』を後世に継承していくためには、まだまだ整備が必要な所がたくさんあるが、第１段階としては達成できたと考えている。 ２、最近のゲリラ豪雨により山の土砂が流れてきていて土砂崩れの心配があるので雨水処理の対策が急務である。 ●波及効果 １、遊歩道が一層整備されたり危険樹木が伐採されたりした事により、四季折々の花をゆっくり楽しみながら愛でることが出来るようになり、より一層市民の憩いの場となっている。 ２、児童生徒の学習活動や部活動の場、市民の散策やジョギングの場としてより安全に活動できるようになった。
８　協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 １、観音山クリーン作戦と名付け地区住民の多くに呼びかけて山の清掃活動を実施した。山中の市道の落ち葉集めや山の下草刈りを実施した。１２月中旬の寒い日であったが１６０人の参加があり、気持ちの良い汗をかいた。きれいになった山を背景に最後に皆でお茶を飲み渇いた喉を潤して解散した。 ２、遊歩道の腐食した杭とロープの交換では、木槌の使い方やロープのしばり方を大先輩から若い人へ教えていただいたので、老若男女の交流だけでなく技術の伝承が行えてとてもよかった。 ３、三尻地区にある観音山は、地域に住んでいる人々が皆で保全活動をしていると言う意識が年々多くの人々に育ってきている。

	●所管課から見た協働の効果 地域の資産としても市内外から愛着を持たれている観音山の風光明媚な景観を醸成する効果があり、来場する人々の見聞を楽しむための環境醸成が図られた。市及び保存会の啓発とともに、歴史と文化財保護の両面から更なる来場者の増加が見込める関係性が構築できた。
９　今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 １、枯松、倒木等の伐採については、おおむね達成できたが、遊歩道の造成と整備についてはまだ不十分であるので、今後も計画的に継続したい。 ２、最近のゲリラ豪雨により山の土砂が流れてきていて土砂崩れの心配があるので雨水処理の対策が急務である。 ３、山の南斜面にも遊歩道を造成に桜やモミジを植樹する計画をしている。 ●所管課から見た今後の展開と課題 自然遺産としての特質がある中で、天候や気象による影響を受けることは必然であり、これらに対して被害を最小限にするための対策が求められている。また地域の人々及び市内外から保存会組織を拡大させるなどの方法とともに、ガイドボランティア等の育成に向けて地域の知見を再認識するなどの方法を模索していく。

熊谷市協働事業提案制度

平成２８年度実施　市民協働「熊谷の力」事業　**成 果 報 告 書**

事 業 名	タグラグビー普及啓発事業	
実施団体等	実施団体：ＮＰＯ法人 ＡＲＵＫＡＳ　ＫＵＭＡＧＡＹＡ	所管課：学校教育課

１　事業目的	・「タグラグビーで学ぶチームワーク授業」を通じ、子どもたちの「生きる力」を育む。 ・２０１９年ラグビーワールドカップ熊谷開催の成功に向けて「熊谷市民のラグビー熱」を高める。	
２　事業概要	本事業は、文部科学省が平成 20 年 6 月改訂の小学校学習指導要領解説【体育編】で例示された「タグラグビー」を、より安全に楽しめる形で授業導入し、少子高齢化や科学技術の進展が早まり人間関係が希薄化している昨今、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育めるよう「One for all , All for one」「No side の精神」「チームワーク」を軸としたカリキュラムを組み、タグラグビーの出前授業を行う。具体的には熊谷市全小学校を 1 年間で訪問して授業を実施（小学校 29 校　4・5 年生 3,210 名対象／109 クラス　35 日※基本 1 日 1 校　人数の多い小学校は 2 日間にわたる）。	
３　事業期間	平成２８年４月１日　～　平成２９年３月３１日	
４　事業区分	市提案事業　・　市民提案事業	
５　事業形態	委託事業　・　補助事業（補助率　８０％）	
６　事 業 費	総事業費　５６８，７４９円（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	事業収入：　0 円（Ａ）
	実施団体の負担額：１１４，７４９円　（Ｂ）	市の負担額：４５４，０００　円（Ｃ）
７　事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 子どもたちにタグラグビーの魅力・楽しさを味わわせることができた。また、生きる力を育むための一助となった。更に、２０１９年のラグビーワールドカップに向けての機運の醸成を図ることができた。 ●達成度 ・事後アンケートにて「タグラグビーの授業は楽しかった」との児童の回答が９９％ ・事後アンケートにて「ラグビー、タグラグビーに興味関心がある」との児童の回答が９０％ ・児童以外に教員、保護者にもラグビー、タグラグビーに興味・関心を持ってもらうことができた。（アンケート結果より） ●波及効果 新聞社、TV など多くのメディアに取り上げられ、熊谷市のみならず県及び県外へも事業効果が波及された。	
８　協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 市と協働で取り組むことで、財政的な支援はもとより、情報を共有することで、円滑に事業を計画・推進することができた。また、学校現場の実態や教職員との連携を基に効果的な授業のプログラムを編成し取り組むことで、児童・保護者のラグビーへの関心を高めることができた。 ●所管課から見た協働の効果 より専門性の高い視点で、目標設定・計画の作成段階から意見交換できることで、より効果的で充実した事業を展開することができた。また、一流選手・指導者との交流を通じて子どもたちの夢を育み、知・徳・体のバランスのとれた学力を身に付けることができた。	

９　今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 　子どもたちのタグラグビーへの関心を一層高め、大会などへの参加も増大できるよう、市との協働により、事業を推進していく。また、２０１９年ラグビーワールドカップに向け、ラグビー人口、ラグビーファン人口の増大を図る。 ●所管課から見た今後の展開と課題 　技能だけでなく、チームワークの大切さを学ぶ本事業を、アルカスとの協働により一層推進していく。また、すべての子どもたちが、ラグビーのルールを理解し、より身近なスポーツとして感じられるよう「ラグビーハンドブック」を作成する。

熊谷市協働事業提案制度

平成２８年度実施　市民協働「熊谷の力」事業　**成 果 報 告 書**

事 業 名	熊谷共助ニュース事業	
実施団体等	実施団体：特定非営利活動法人 NPO くまがや	所管課：市民活動推進課

１　事業目的	熊谷市内の「共助・市民活動」情報を発信し、課題を共有することで、解決の方法を探り、市民活動を活発化させる。	
２　事業概要	熊谷市の市民活動、共助の情報を、ミニＦＭラジオ、印刷物、ＳＮＳ、インターネットなどのメディアミックスで発信する。 市民に参加を呼びかけながら議論を深め、「熊谷共助スタイル」を創造する。	
３　事業期間	平成２８年４月１日～平成２９年３月３１日	
４　事業区分	市提案事業　・　市民提案事業	
５　事業形態	委託事業　・　補助事業（補助率８０％）	
６　事 業 費	総事業費：　１０９，０２０円（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	事業収入：　０円（Ａ）
	実施団体の負担額：　２２，０２０円（Ｂ）	市の負担額：８７，０００円（Ｃ）
７　事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 情報発信、課題共有、市民活動の活性化という目的はある程度達成されました。部門別には、次のような成果があげられます。 １）ミニＦＭ　番組制作のために企画した「もんだいカフェ」が想定以上の効果を上げ、熊谷市の課題に関心のある多くの人びとが出会う場となり、カフェから発生した動きもいくつかあります。さいたま NPO センター情報誌、北部地域振興センターホームページで紹介されるなど外部からも好評です（もんだいカフェ開催 4 回、参加者のべ約 80 名）。 ２）印刷物　年一回の印刷・発行に変更しましたが、その分フルカラーA4 版 8 ページとボリュームが大きくなり、これ一部で一年の熊谷共助・市民活動の動きがわかると好評です（3 月 31 日号発行 5000 部）。 ３）SNS・インターネット　市民活動情報を Facebook ページで発信しました。他の事業との違いは「問題提起型」のコンテンツである点で、イベント情報の発信でも背景にある問題・課題を共有させるような内容になりました（投稿 13 回） ４）「熊谷共助スタイル」声明の発表にはいたりませんでしたが、もんだいカフェなどで課題に対する考え方を多くの市民、とくに事業開始前には知らなかった人々と共有することができ、次年度以降の展開につなげることができたと思います。 ●達成度 もんだいカフェ　開催 4 回、参加者のべ約 80 名 印刷物　3 月 31 日号発行 5000 部 Facebook　投稿 13 回 事業の回数、事業費など、達成度は高くありません。 ●波及効果 とくに、もんだいカフェで多くの波及効果がありました。 次年度、商業観光課との市民協働「熊谷の力」に採択された　「移動健康カフェ」事業は、「高齢化社会」を語るカフェでの話し合いから生まれています。ほかに、「バリアフリー」の回ではニャオざねまつり実行委員会での話し合いからの乗り入れ。そしてカフェに参加した多くの人が NPO の会員になり、その中から次年度から本 NPO 法人が指定管理することになった市民活動支援センターのスタッフが生まれるといった、「もんだいが人（と意識）を集める」ことによる波及効果が生まれました。	

８　協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 　ひとつは広報に関すること。もんだいカフェの告知にしても、「熊谷の力」の効果は大きく、またNPOとの協働という位置づけが、ある参加者から「行政が実施する集まりとは違う」との声が出るほどいい意味で「微妙」で効果的でした。 　次にNPO会員に市民活動推進課非常勤で市民活動支援センター常駐の「共助仕掛人」がいたこと。市内の動きや他市、県の動きがダイレクトに伝わり、密度の濃い事業ができました。 ●所管課から見た協働の効果 　実施団体の意見にもあるように、NPO会員に市民活動推進課非常勤で市民活動支援センター常駐の「共助仕掛人」がいたことが効果を上げていた。NPOと「共助仕掛人」のネットワークの活用により有効な情報提供ができた。
９　今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 　市民活動の中間支援の団体である本法人の発信事業として、今後も市民活動推進課と連携しながら進めていきます。本法人は29年度から市民活動支援センターの指定管理者となるため、共助と市民活動の情報発信は登録団体を中心に同センターの一事業として展開する予定。不足しがちだった人材もセンタースタッフの活用で安定します。 　課題としては、市内他セクション、周辺市町村、県などとの連携。29年度から民営化される観光協会、市民活動紹介ページもあり本法人理事でもある㈱ピーアイピー発行のフリーペーパー「NAOZANE」編集部などとも情報を共有しながら、より密度の濃い発信に努めます。 ●所管課から見た今後の展開と課題 　実施団体が平成29年度から市民活動支援センターの指定管理者となるため、引き続き「共助・市民活動」情報を発信し、市民活動の活発化を支援できると考える。

（別紙様式１）

団体名	ＣＯＣＯレンジャー

事業実績報告書（　28　　年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　◯「チャレンジ助成金」
２　事業名称		犬、猫の殺処分ゼロを目指す 地域猫活動、ＴＮＲの推進
３　交付決定助成金額		２５７，０００円
４　助成事業に要した経費の額		９３３，０１６円
５　助成金要望額		２５７，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	1.　犬、猫の殺処分ゼロを目指す。 2.　地域猫（さくら猫）を広め、人と動物が、明るく、快適に共生できるまちづくりを目指す。 3.　野良猫の問題を、地域、環境、高齢者問題ととらえることで、行政、地域住民と協働してまちの課題の解決にあたる社会を実現する。 （詳細説明） 1.関連事業 TNR（捕獲・不妊手術・リターン）　♂　41匹　♀83匹 計 124匹 乳児、怪我を伴う猫の保護、並びに里親への譲渡 犬 9 匹　猫　56　匹 2.関連事業 啓発活動のため、各種イベントへのブース出展 桜よさこい 妻沼手づくり市 アイメイト共同ブース おにっこまつり 熊谷エコライフフェア B 級グルメ

		熊谷うちわ祭 まちの猫の写真展 ニャオザネまつり 星霜祭 熊谷市産業祭 くまがやまちの灯り 原田勇雅コンサート 「犬に名前をつける日」自主映画会 等、他 3.関連事業 啓発ブース、また市内各店舗における募金活動 小冊子「ある犬のおはなし」を熊谷市立小中学校全 589 クラスに手づくり配布 映画「犬に名前をつける日」自主上映会　ならびにトークショー
	⑵　助成事業の成果の現われ度	飼い主のいない動物を根本的に増やしているのは、業者であり、飼い主であり、またそれを充分にコントロールできない国の法律の不備です。その点に関しては全国的な活動とともに、数の力がないと解決できません。また、協力獣医師の不足です。獣医は自由診療ですので、その価格は定まっていません。多くの猫を TNR していくには莫大な資金が必要になりますが、おかげさまで近隣に協力獣医師が存在する御蔭で活動が成り立っています。しかしながらその獣医への負担は見逃せません。行政と条例を基に協定を結ぶという方法をとっている自治体もありますが、数はとても少ない状況です。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	目に見える大きな変化はすぐには出ないでしょう。しかし確実に不幸な命は減っていきます。継続して TNR を進めつつ、行政の意識改革と、協力獣医師の発掘に努めます。
7　成果の自己評価		ご支援をいただき、おかげさまで「地域猫」の呼称とともに、私たち団体の事も少しずつ認知され、地域での活動がスムーズに行われるようになってきました。記録のとおり、当初目標よりも圧倒的に多い TNR が実践され成果を上げています。熊谷市においても活動が評価され、平成 29 年度市民協働「熊谷の力」事業に採択され、29 年度は行政と共に活動を進めます。また、自治会連合会を通じ自治会との連携、埼玉県動物指導センターと、熊谷市行政、ボランティアの連携が定期的に行われるよう、努めていきます。

（別紙様式１）

団体名	めぬま館・お休み処

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		国宝聖天山周辺観光・まちおこし（七夕飾り）
３　交付決定助成金額		１２６，０００円
４　助成事業に要した経費の額		２３２，５１８円
５　助成金要望額		１２６，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	当日は朝から雨が降り、開催自体が危ぶまれた中であったが、多くの方々の協力により、期待を上回る成果が得られ、七夕飾りの催しを通して来訪者に熊谷の素晴らしさをアピールできた。 また、イベントの参加者に市営駐車場を利用するよう案内をして、利用促進にも貢献できた。
	⑵　助成事業の成果の現われ度	助成事業の　地元商店街の行う恒例の七夕飾りに合わせて開催したこと、また地元の幼児にも参加いただいたことにより、まちの賑わいを増すことができた。さらに、めぬまレディース、めぬまチャンネル、ふれあいネットワーク等、各種団体との協働もできた。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	聖天様境内に 18 本の笹竹を設置し、約１８０人の来訪者に短冊を書いてもらい飾り付けをした。7 月 9 日にはキャンドルを２００個並べ天の川に見立てた。 また、カラーキャンドルで大きなハートを模って縁結びのまちをイメージした。コンサートは、ハーモニカ、尺八、鼻笛の演奏に合わせ、約２６０人の参加者も共に歌い楽しんだ。
７　成果の自己評価		地元の商店街と住民、さらに関係する各種団体との協力も得られ、来場者に好評をいただいた。 今後は、ワールドカップの開催も視野に入れ、“おもてなし日本一”をめざして聖天山周辺の賑わいを高めていきたい。

（別紙様式１）

団体名	めぬまガイドボランティア阿うんの会

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		郷土を知り、良さに気づき、郷土愛のある人を育てる
３　交付決定助成金額		２２７，０００円
４　助成事業に要した経費の額		２１５，４１５円
５　助成金要望額		１６１，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	①　旧妻沼町の小学校（５校）６年生に対する出前授業は１００％実施でき、児童は授業に対し非常に興味を持ってくれた。達成度は１００％ ②　阿うんの会員、熊谷市内の郷土文化会、熊谷探偵団等の会員等の資質の向上に向けて行った講演会に多くの参加者を得ることが出来た。達成度８０％
	⑵　助成事業の成果の現われ度	①　出前授業での成果は、顕著に表れてきている。６年生が保護者を聖天堂に招待し、児童自身がガイドをしていた学校もあった。１００％ ②　阿うんの会主催の研修会に他の団体からの参加者はまだまだ多いとは言えなかった。成果の現われ度は７０％
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	①　妻沼小学校では、６年生が保護者に聖天堂をガイドしていた。 ②　太田小学校においては、６年生が下級生に聖天様の文化財的な価値や素晴らしさを教えていた。 ③　阿うんの会主催の講演会に他の団体からも回を重ねるに従って参加者も増えてきた。 研修会に参加した他の団体「熊谷歴史研究会・熊谷探偵団・熊谷雑学会・妻沼地区歴史研究会・斉藤別当実盛敬仰会・吟子の会・吟子保存会」
７　成果の自己評価		①　６年生への出前授業は好評だったので、２９年度も２８年度同様に実施する計画である。 ②　阿うんの会主催の講演会に、他の団体から参加しやすい時間帯や会場等を工夫していくことにより、より多くの方が参加出来るようにする。

（別紙様式１）

団体名	めぬまガイドボランティア阿うんの会

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		郷土を知り、良さに気づき、郷土愛のある人を育てる
３　交付決定助成金額		２２７，０００円
４　助成事業に要した経費の額		２１５，４１５円
５　助成金要望額		１６１，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	①　旧妻沼町の小学校（５校）６年生に対する出前授業は１００％実施でき、児童は授業に対し非常に興味を持ってくれた。達成度は１００％ ②　阿うんの会員、熊谷市内の郷土文化会、熊谷探偵団等の会員等の資質の向上に向けて行った講演会に多くの参加者を得ることが出来た。達成度８０％
	⑵　助成事業の成果の現われ度	①　出前授業での成果は、顕著に表れてきている。６年生が保護者を聖天堂に招待し、児童自身がガイドをしていた学校もあった。１００％ ②　阿うんの会主催の研修会に他の団体からの参加者はまだまだ多いとは言えなかった。成果の現われ度は７０％
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	①　妻沼小学校では、６年生が保護者に聖天堂をガイドしていた。 ②　太田小学校においては、６年生が下級生に聖天様の文化財的な価値や素晴らしさを教えていた。 ③　阿うんの会主催の講演会に他の団体からも回を重ねるに従って参加者も増えてきた。 研修会に参加した他の団体「熊谷歴史研究会・熊谷探偵団・熊谷雑学会・妻沼地区歴史研究会・斉藤別当実盛敬仰会・吟子の会・吟子保存会」
７　成果の自己評価		①　６年生への出前授業は好評だったので、２９年度も２８年度同様に実施する計画である。 ②　阿うんの会主催の講演会に、他の団体から参加しやすい時間帯や会場等を工夫していくことにより、より多くの方が参加出来るようにする。

（別紙様式１）

団体名	認定ＮＰＯ法人くまがや小麦の会

事業実績報告書（　平成 28　年度）

1　助成金名		「スタート助成金」　　「チャレンジ助成金」
2　事業名称		「10 周年記念誌　認定NPO法人へのガイドブック」の発行を行い、広く市民の皆様に説明会を開催する。熊谷産小麦に乳酸菌生産物質を配合した「マーブル・フローラ・サブレ」の開発と広く市民を対象としたクッキング教室の開催
3　交付決定助成金額		２５６，０００円
4　助成事業に要した経費の額		６５０，９００円
5　助成金要望額		２５６，０００円
6　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	①　H28. 10. 15「１０周年記念誌　認定ＮＰＯ法人へのガイドブック」の発行を実施。関係部署への配布、説明会の開催を実施した。 ②　乳酸菌生産物配合の「マーブル・フローラ・サブレ」を新発売した。
	⑵　助成事業の成果の現われ度	①　「認定ＮＰＯ法人へのガイドブック」を教材にＮＰＯ法人への説明会を実施し、参加者の中から認定ＮＰＯ法人を申請した団体が出た。 ②　「マーブル・フローラ・サブレ」を小麦の会の直売所、小麦の会ホームページで紹介、拡売を実施した。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	①　認定ＮＰＯ法人を申請する団体が出てきた。 ②　マーブル・フローラ・サブレ」の定期的な購入者が出てきている。
7　成果の自己評価		①　ＮＰＯ法人にとって認定を取得することの意義の理解を進めることが出来た。認定ＮＰＯ法人に対して寄付をして頂く企業、個人は税

	制の優遇措置が受けられる。この事は認定ＮＰＯ法人が寄附を受け易くなり、法人の活動に広がりが出てくる。人が暮らしやすい環境の作りが認定ＮＰＯ法人の活動目的であるので、体質強化された認定ＮＰＯ法人の企業としての活動価値を高める機会に貢献できた。 ② 高齢化社会を元気で過ごす元は自己免疫力の強化が有効である。クッキング講習会を通して、乳酸菌生産物質の普及、乳酸菌生産物質配合の「マーブル・フローラ・サブレ」の拡売を行い、常用して頂く消費者の方が増えてきた。

（別紙様式１）

団体名	All Education Academy

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		インバウンド×英語ボランティアキッズ in 熊谷うちわ祭 2016
３　交付決定助成金額		２５７，０００円
４　助成事業に要した経費の額		４５８，８２９円
５　助成金要望額		２５７，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	外国人家族と日本人家族（ボランティアスタッフも含む）双方にアンケートを実施した結果、当初目標としていた満足度８０％を超える結果として１００％を達成した。（詳細は別紙アンケート集計表参照）
	⑵　助成事業の成果の現われ度	この事業を進めていくにあたり、インバウンド対策に向けたアプリ開発の協力（有限会社エイケイシステム様）、又、荒川区及びうちわ祭り協賛会から来年度へ向けた更なる連携を構築していくこととなっている。 この事業を通して、横田基地との交流がスタートした。９月には横田基地友好祭へのバスツアーを実現する。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	・参加受講者 １１組の家族（年中～高校生までの子供とその家族） ・英語ボランティアスタッフ ６名（内１名カナダ留学中の高校生） 全受講者に「日常会話を目標に、常に心掛けて行き、英会話を使える様になりたい。もっと英語をがんばりたい。」という気持ちが芽生え、今後も外国人との交流機会を持ちたいと思っている。９割の受講者が、３年後のＲＷＣや２０２０年東京オリンピックに向けた通訳養成講座への受講を希望している。
７　成果の自己評価		当初の目標に対し、人材の確保について課題はあるものの、参加者の満足度も非常に高く、はじめの一歩事業としては成功を収めたと実感している。ただのイベントに終わらず、９月からも継続的な人材育成を行っていく。

（別紙様式１）

団体名	All Education Academy

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		インバウンド×英語ボランティアキッズ in 熊谷うちわ祭 2016
３　交付決定助成金額		２５７，０００円
４　助成事業に要した経費の額		４５８，８２９円
５　助成金要望額		２５７，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	外国人家族と日本人家族（ボランティアスタッフも含む）双方にアンケートを実施した結果、当初目標としていた満足度８０％を超える結果として１００％を達成した。（詳細は別紙アンケート集計表参照）
	⑵　助成事業の成果の現われ度	この事業を進めていくにあたり、インバウンド対策に向けたアプリ開発の協力（有限会社エイケイシステム様）、又、荒川区及びうちわ祭り協賛会から来年度へ向けた更なる連携を構築していくこととなっている。 この事業を通して、横田基地との交流がスタートした。９月には横田基地友好祭へのバスツアーを実現する。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	・参加受講者 １１組の家族（年中～高校生までの子供とその家族） ・英語ボランティアスタッフ ６名（内１名カナダ留学中の高校生） 全受講者に「日常会話を目標に、常に心掛けて行き、英会話を使える様になりたい。もっと英語をがんばりたい。」という気持ちが芽生え、今後も外国人との交流機会を持ちたいと思っている。９割の受講者が、３年後のＲＷＣや２０２０年東京オリンピックに向けた通訳養成講座への受講を希望している。
７　成果の自己評価		当初の目標に対し、人材の確保について課題はあるものの、参加者の満足度も非常に高く、はじめの一歩事業としては成功を収めたと実感している。ただのイベントに終わらず、９月からも継続的な人材育成を行っていく。

（別紙様式１）

団体名	在宅ライフ倶楽部

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		“障がい者在宅ライフ倶楽部をみんなに知ってもらおう”
３　交付決定助成金額		２５６，０００円
４　助成事業に要した経費の額		１６９，０９２円
５　助成金要望額		１２６，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	障がい者在宅ライフ倶楽部を知ってもらうという目的で、うちわ祭の出展、映画上映会、ミニライブを開催した。参加者の在宅障がい者の生活への理解が深まるなど、期待していた成果の概ね７０％程度達成できた。
	⑵　助成事業の成果の現われ度	イベントへの参加やボランティアでのイベント手伝いなどを行ってもらい、概ね７０％程度成果が現われている。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	①　うちわ祭りでは、お祭り広場にＰＲブースを出展でき、１００名が参加した。中学生のボランティア参加もなされた。 ②　「えんとこ」上映会では、立正大学を会場とし、大学生・一般参加者約８０名に在宅障がい者の生活を知ってもらえた。 ③　ミニライブでは一般参加者約１００名との交流が実現した。
７　成果の自己評価		企画したイベントのいずれも事前準備段階からボランティアの手伝いがあった。当日参加者も多く、ある程度目的を達成できたが、これからも在宅ライフ倶楽部を広めていきたい。

（別紙様式１）

団体名	村岡自治会

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		文化財めぐりスタンプラリー
３　交付決定助成金額		７７，０００円
４　助成事業に要した経費の額		１０２，９５３円
５　助成金要望額		７７，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	多世代にわたる多くの地域住民の参加を通じて、「連携の絆」と「地域コミュニティの活性化」が図られ、チャレンジ助成事業の初期の目的をほぼ達成したと考えている。（目的達成度９５％）
	⑵　助成事業の成果の現われ度	前年度の市民協働「熊谷の力」事業の成果を生かし、文化財に対する近隣地域や一般市民への啓発活動も目的とした。関心度も高く、吉岡地域以外の市民の参加もあったり、次年度開催への要望も多く寄せられるなど、事業の成果は計画通り成功した。次回は、さらに周知のための広報活動に時間と工夫を加えていきたい。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	① 多世代かつ多地域にわたる住民の参加 （幼児から最高齢者８９歳、村岡地区以外からも多数の参加） ② 住民の文化財への関心度の高まり （解説者の話を熱心に聞いたり、文化財案内立札を見たりして、理解を深めようとする多くの姿があった。） ③ 歩きながらヘルスアップ運動への取り組み （日常のウォーキング活動への動機づけとなった） ④ 吉岡地区各自治会、各種団体間の堅固な協力体制の構築（主催団体役員以外に、吉岡地区各自治会や各種団体の役員、ボランティア等が応援スタッフとして参画した）
７　成果の自己評価		① この事業により、地域の財産である文化財に対す

	る住民の関心を高めるという大きな成果をあげた。 ② 幅広い世代間の交流を通じて、地域の活性化を図るコミュニティ活動として、今後も取り組んでいく基盤が形成されたと考えている。

（別紙様式１）

団体名	にじいろリングプロジェクト実行委員会

事業実績報告書（平成２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」　　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		「にじいろリングプロジェクト～子どもの笑顔は宝物～」 ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会
３　交付決定助成金額		８６，０００円
４　助成事業に要した経費の額		２６７，４５５円
５　助成金要望額		８６，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	**1. 子育てをするすべての人々に「うまれる」ことの奇跡と命の大切さ、家族の絆、人との繋がり、生きることとは何かを共に考える機会を創る。** 子育てをする環境は、子供が成長する過程で変化していく。ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会に参加された多くの方々が「生命誕生」の素晴らしさや奇跡を感じ、家族の絆や人との繋がりの大切さを改めて気付く機会となった。 **2. 子育て支援を通してさまざまな社会的不利（ハンディキャップ）に関わらず、この地域に暮らすすべての人々が生きやすい環境を創る。** この地域には、社会的不利（ハンディキャップ）のある人もない人も様々な人が暮らしている。実際に、自分の暮らす地域にどのような人たちが暮らし、存在するのかということをこのプロジェクトを通じて、気付き知ろうとすることで、皆が暮らしやすい地域に何が必要かを考えるきっかけとなった。 **3. 次世代を担う子育てに関わるすべての人々がお互いを知り、理解し、助け合える環境を創る。** 子育てに関わる多くの人々が一堂に会し、子どもの障害の有無に関わらず同じ時間を共有することで、今、地域に様々

		なハンディキャップを持つ人も生活している事を知り、触れ合う事で相手を理解し助け合おうという気持ちが育つきっかけとなった。
	⑵　助成事業の成果の現われ度	ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会に参加されたみなさまからいただいたアンケートには、 ・自分がうまれた時のことを考えたことや親と話したことがなかったが、考える良いきっかけとなった。 ・「うまれる」ことがすごいことだと改めて思うことが出来ました。大切な命を預かる保育者を目指しているのでとても良い勉強になった。 ・自分がうまれた時もこうだったのかなと思い、親に感謝したいと思いました。 ・様々な夫婦の姿、家族の姿を見ることができて、今、生きていることは当たり前ではないことを感じました。 ・当たり前の日常がすごくすごく大切なんだと思いました。 ・出産を思い出し、改めて我が子の愛おしさを感じました。 ・是非、中高生など学生にも見て欲しい。 ・家に帰って子どもを抱きしめようと思いました。 ・命、家族について改めて考え、家族に感謝する機会になりました。次は、家族と一緒に見たいです。 などの感想が寄せられた。 上映会を通じ、子どもと向き合うことの大切さや、命の奇跡を再確認された方もアンケートから多く感じられた。 また、命の重みには、ハンディキャップや、さまざまな環境の差はあっても変わりがないという事に気付かれた方も多かったように思う。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	【観賞者数】 **8月3日（水）さくらめいと月のホール** ◆午前の部 成人82名　児童7名　計 89名 未就学児54名（内託児利用数25名） ◆午後の部 成人86名　児童24名　生徒6名　計116名 **8月5日（金）立正大学　1101教室** 成人37名　計 37名 **合計242名**

7　成果の自己評価	現在子育て中の家庭を取り巻く環境は、核家族化や、女性の社会進出により、孤立しやすい現状が見られる。子育てをする上で大切なことは、子どもが生まれる『奇跡』を大事に日々過ごすことではないかと感じている。 これからの次世代を担う若いお母さんたちは『命』に一番近いところにいて、柔らかい感性で子育てをしている。 地域を知り、地域に暮らすさまざまな人達と関わりを持つことがよりよい子育て環境を創り、共生社会への一歩に繋がると気付いてもらえた上映会になった。

（別紙様式１）

団体名	特定非営利活動法人　　オレンジステーション

事業実績報告書（平成 28　年度）

1　助成金名		「スタート助成金」　　「チャレンジ助成金」
2　事業名称		「おいしく食べて元気で長生き」体験イベントをスタートアップ作戦にするはじめの一歩
3　交付決定助成金額		86,000 円
4　助成事業に要した経費の額		136,326 円
5　助成金要望額		86,000 円
6　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	県内の高齢化は他県に類を見ない速度で訪れます。 スタッフの経験や実績を生かし「健康寿命を延ばす」ことをサポートする目的で体験イベントを開催しました。 その結果、活動内容を皆さまに知って頂くことが出来、「健康寿命を延ばす」ための基盤になりました。
	⑵　助成事業の成果の現われ度	体験イベントを通して、一人ひとりの健康意識、生活体力の向上により、いつまでも日常的に介護を必要としない自立した生活をおくるための参考になりました。 参加者から直ぐに実行でき役立ったなどの声があり、一人ひとりの健康意識がさらに高まりました。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	10 月 22 日に「おいしく食べて元気で長生き」体験イベント開催。 内容は口腔、食事、運動について「いつでもどこでも誰にでも簡単に実践できる」講座 ①歯科衛生士による「お口の話」②管理栄養士による「食事の話」③健康運動指導士による「簡単運動」で実技を交え、50 代～70 代の方を中心に約 30 人を集めて行われ、笑いながら大変にぎわいました。
7　成果の自己評価		講座終了後に参加者の方から、「楽しく学べました」「今後の参考になりました」「家でもやってみます」「久しぶりに脳みそが動いた気がした」「すこしでも気をつけていきたいと思う」などの声があり、一人ひとりの健康意識が更に高まる結果に結び付きました。 少しずつ一人ひとりが今回の講座内容を生活に取り入れることで、健康意識が高まり、「健康寿命を延ばす」ことができると確信しました。 これを糧に更に活動していきたいと考えています。

（別紙様式１）

団体名	これからの地域の繋がりと街づくりを考える会“ペガサス”

事業実績報告書（平成 28 年度）

<table>
<tr><td colspan="2">1　助成金名</td><td>「スタート助成金」</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　事業名称</td><td>街のしゃべり場　ちょこっと　より道</td></tr>
<tr><td colspan="2">3　交付決定助成金額</td><td>８６，０００円</td></tr>
<tr><td colspan="2">4　助成事業に要した経費の額</td><td>１０５，７１４円</td></tr>
<tr><td colspan="2">5　助成金要望額</td><td>７９，０００円</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6　助成事業の成果</td><td>⑴　助成事業の目的達成度</td><td>イベントなどを通して、当初の目的である支えあうコミュニティづくりが出来つつある。
　参加者から、この様な場所があって嬉しいとの声があった。</td></tr>
<tr><td>⑵　助成事業の成果の現われ度</td><td>初めて顔を合わせる方が多く集う一方、再来する方もあった。これらの人と人とが新たな繋がりを持ち、皆が集える場所となってきた。</td></tr>
<tr><td>⑶　助成事業の成果の具体的内容</td><td>イベント参加者（七夕 11 人、餅つき 9 人）
布ぞうり講習受講者（全 7 回、54 人）
布ぞうり講習会は、特に人気があり、数ヶ月先まで満員となり、キャンセル待ちを希望する人もいた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">7　成果の自己評価</td><td>市報などの掲載により、関係者のみにとどまらず多くの人との輪が少しずつ広がっている。
これはこの事業の成果だと評価できる。
誰もがふらっと立ち寄れる集いの場となる為、商店街の活性化となる為に、引き続き継続していく事が大切と考えている。</td></tr>
</table>

（別紙様式１）

団体名	これからの地域の繋がりと街づくりを考える会“ペガサス”

事業実績報告書（平成 28 年度）

<table>
<tr><td colspan="2">1　助成金名</td><td>「スタート助成金」</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　事業名称</td><td>街のしゃべり場　ちょこっと　より道</td></tr>
<tr><td colspan="2">3　交付決定助成金額</td><td>８６，０００円</td></tr>
<tr><td colspan="2">4　助成事業に要した経費の額</td><td>１０５，７１４円</td></tr>
<tr><td colspan="2">5　助成金要望額</td><td>７９，０００円</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6　助成事業の成果</td><td>⑴　助成事業の目的達成度</td><td>イベントなどを通して、当初の目的である支えあうコミュニティづくりが出来つつある。
　参加者から、この様な場所があって嬉しいとの声があった。</td></tr>
<tr><td>⑵　助成事業の成果の現われ度</td><td>初めて顔を合わせる方が多く集う一方、再来する方もあった。これらの人と人とが新たな繋がりを持ち、皆が集える場所となってきた。</td></tr>
<tr><td>⑶　助成事業の成果の具体的内容</td><td>イベント参加者（七夕 11 人、餅つき 9 人）
布ぞうり講習受講者（全 7 回、54 人）
布ぞうり講習会は、特に人気があり、数ヶ月先まで満員となり、キャンセル待ちを希望する人もいた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">7　成果の自己評価</td><td>市報などの掲載により、関係者のみにとどまらず多くの人との輪が少しずつ広がっている。
これはこの事業の成果だと評価できる。
誰もがふらっと立ち寄れる集いの場となる為、商店街の活性化となる為に、引き続き継続していく事が大切と考えている。</td></tr>
</table>

（別紙様式１）

団体名	KUK-KIZUNA プロジェクト推進委員会

事業実績報告書（　２８年度）

１　助成金名		「スタート助成金」
２　事業名称		KUK-KIZUNA プロジェクト
３　交付決定助成金額		８６，０００円
４　助成事業に要した経費の額		９１，０９７円
５　助成金要望額		６８，０００円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	親子でふれあう場の提供をつくることで、親子関係の充実に協力できた。 （親子で楽しむための体験交流会企画）
	⑵　助成事業の成果の現われ度	ベーグル作りの指導者５名を育成し、平成２８年１１月２０日くまぴあに於いてベーグル作りの体験交流会を開催した。 ２４名の参加があった。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	ベーグル体験交流会には、親子１１組の参加があった。 ベーグル講習会で資格を得た５名のインストラクターが各テーブルにつき、参加者に成形、焼きの指導をし、会食まで十分楽しんで貰えた。
７　成果の自己評価		当初の目標である、「指導者養成講習会、親子ベーグル体験交流会の開催」を達成できたと評価できる。 今回は、体験交流会でベーグル作りの工程のうち、主に「成形」、「焼き」を体験していただいたが、今後は「生地作り」から親子で参加していただくことで、さらなる親子の絆の形成を図りたいと考えている。